

# Europe Indicators

発表日:2021年1月22日(金)

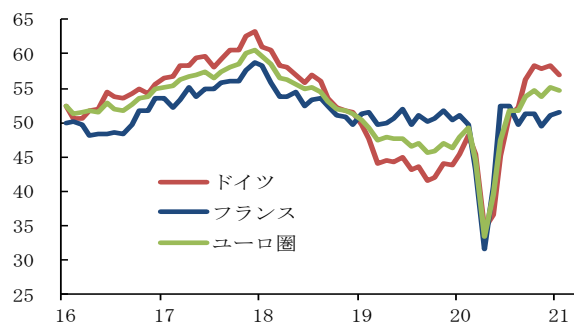
## 欧州経済指標コメント:1月ユーロ圏PMI速報

～第一波に比べて都市封鎖による下押しは小さい～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 田中 理 (TEL:03-5221-4527)

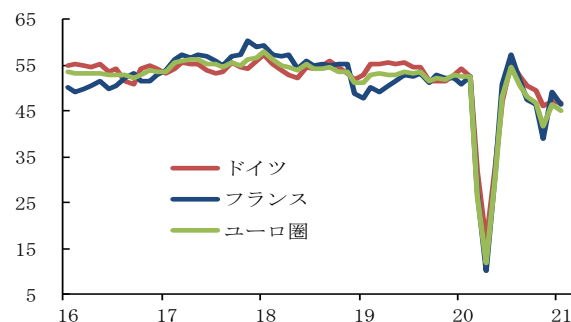
- 1月のユーロ圏総合PMIの速報値は47.5と前月の49.1から1.6ポイント低下。3ヵ月連続で好不況の分岐点(50)を割り込んだ。今月の業況悪化は、年明け以降もコロナの感染拡大が続き、多くの欧州諸国が都市封鎖の強化や延長に踏み切ったことを反映。総合PMIを構成する2項目の内訳は、製造業の産出指数(製造業PMIの構成項目の1つ)が、世界的な需要回復に支えられて高水準を維持しながらも、前月:56.3→今月:54.5に低下した。他方、サービス業活動指数(サービス業PMI)が46.4→45.0と5ヵ月連続の50割れで、悪化モメンタムが拡大した。ただ、製造業・サービス業ともに第一波に比べて都市封鎖による業況下押しは軽微にとどまっている。
- 速報段階で入手可能な国別・業種別の内訳は、ドイツで製造業とサービス業が揃って前月から低下したのに対し、フランスではサービス業が低下した一方、製造業が持ち直した。今回の独仏の製造業の業況変化の差は、主に新規受注判断の良し悪しに依存。両国で輸出受注判断が新規受注判断と対照的な動きをしており、ドイツで国内受注が受注全体の足を引っ張り、フランスで国内受注が全体の回復を牽引した模様。年明け後にドイツが都市封鎖を強化したことが受注冷え込みに影響した可能性もあるが、行動制限が製造業活動に直接影響する分野は少なく、大口受注など一過性の要因で両国間に相違が出たものと考えられる。サービス業は独仏ともに前月から低下。両国ともに40台後半を維持しており、10台まで一気に冷え込んだ第一波に比べて底堅い。

■ユーロ圏:製造業PMI



出所: IHS Markit

■ユーロ圏:サービス業PMI



出所: IHS Markit

■購買担当者指数 (PMI、季節調整済み)

	2020				2021											
	1Q	2Q	3Q	4Q	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		
ユーロ圏 総合産出指数	44.2	31.3	52.4	48.1	13.6	31.9	48.5	54.9	51.9	50.4	50.0	45.3	49.1	47.5		
製造業購買担当者指数	47.2	40.1	52.4	54.6	33.4	39.4	47.4	51.8	51.7	53.7	54.8	53.8	55.2	54.7		
サービス業業況指数	43.9	30.3	51.1	45.0	12.0	30.5	48.3	54.7	50.5	48.0	46.9	41.7	46.4	45.0		
ドイツ 総合産出指数	45.6	32.3	54.8	52.9	17.4	32.3	47.0	55.3	54.4	54.7	55.0	51.7	52.0	50.8		
製造業購買担当者指数	46.2	38.8	53.2	58.1	34.5	36.6	45.2	51.0	52.2	56.4	58.2	57.8	58.3	57.0		
サービス業業況指数	46.1	32.0	52.9	47.5	16.2	32.6	47.3	55.6	52.5	50.6	49.5	46.0	47.0	46.8		
フランス 総合産出指数	44.0	31.6	52.5	45.9	11.1	32.1	51.7	57.3	51.6	48.5	47.5	40.6	49.5	47.0		
製造業購買担当者指数	48.0	41.5	51.1	50.7	31.5	40.6	52.3	52.4	49.8	51.2	51.3	49.6	51.1	51.5		
サービス業業況指数	43.6	30.7	52.1	44.8	10.2	31.1	50.7	57.3	51.5	47.5	46.5	38.8	49.1	46.5		

出所: IHS Markit

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。